

平成27年度
山陽小野田市中学生海外派遣事業
帰国報告書



平成27年8月13日(木)～8月24日(月)

山陽小野田市

◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

2 派遣先

オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間

平成27年8月13日(木)～8月24日(月) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

あざかみ 阿座上	りほ 里帆	竜王中学校3年
つかもと 塚本	まゆ 真由	高千帆中学校3年
まさだ 政田	みおか 澪花	厚陽中学校3年
はせがわ 長谷川	たかこ 敬子	小野田中学校教諭

くぼた 久保田	みはる 美春	埴生中学校3年
はたべ 畠邊	なつき 夏季	小野田中学校3年
やすしげ 安重	ももか 百華	厚狭中学校3年



5 スケジュール

《事前研修》

第1回オリエンテーション	6月24日(水)18:30~	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション (宿泊研修)	7月22日(水)13:30~ 23日(木)12:00	きらら交流館1階研修室
壮行会	8月 5日(水)10:00~	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	8月 5日(水)壮行会終了後	市役所3階大会議室



《オーストラリア派遣》

8月13日(木)	厚狭駅～福岡空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月14日(金)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式。終了後校内で過ごす。
8月15日(土)	ホストファミリーと過ごす。
8月16日(日)	ホストファミリーと過ごす。
8月17日(月)	レッドクリフハイスクールで授業。
8月18日(火)	レッドクリフハイスクールで授業。
8月19日(水)	ハンピーボング小学校(※1)訪問。
8月20日(木)	スカーバラ小学校(※2)訪問。
8月21日(金)	ステップ・アップ・プログラム及びさよならパーティー。
8月22日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月23日(日)	ブリスベン空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月24日(月)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

※2 スカーバラ小学校は高千帆小学校の姉妹校

《帰国後》

帰国報告会	9月25日(金)17:00~	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------

活 動 日 誌

日付	報告者	活動内容
8/13 (木)	塚本 真由	6時40分に厚狭駅に集合。新幹線で博多駅に行き、地下鉄に乗って福岡空港に着いた。7時間かけてシンガポールのチャンギ空港に着いた。チャンギ空港はとても広くターミナルが3つもあった。6時間という長い時間の滞在だったので、たくさんのお店をまわれた。
8/14 (金)	政田 澄花	機内で眠り、翌朝ブリスベン空港へ到着しました。バスでレッドクリフハイスクールに行きました。日本語の授業に参加しました。最初は英語が早いのと私たちが授業で学習している発音と違う部分があり聞き取りにくかったです。授業が終わった後にホストファミリーが迎えに来てくれて家に温かく迎えてくれました。部屋には桜のオブジェにライトアップ、“Welcome Mioka”と書かれたボードがあり嬉しかったです。
8/15 (土)	政田 澄花	ホストファミリーとの初めての休日。ホストマザーの友達の家に泊りに行きました。昼はJadaと持参した折り紙で5種類のケーキを折って遊んだ。その後、ビーチに行って湖で魚釣りをしました。3匹釣れました。夜は庭でキャンプファイヤー。マシュマロを棒にさして焼いてたべました。
	畠邊 夏季	この日は、疲れていたので、ほとんど家にいて、映画と一緒に観たり、趣味の話をしたり、ゆっくりと過ごしました。バディとさらに仲良くなることができました。晩御飯の前に“いただきます”をしたら、Juliet もやってくれました。家族の写真を見せて、いろいろな話をしました。
8/16 (日)	阿座上 里帆	ホストファミリーが動物園に連れて行ってくれた。オーストラリアでしか見られない、ウォンバットやカンガルーを間近で見て、触ることができた。また、コアラの赤ちゃんを抱っこさせてもらい、三姉妹と私で写真を撮ってもらった。とても充実した一日になった。
	塚本 真由	朝、ショッピングモールに行って、たくさんのお土産を買った。ホストマザーが安いお店を探してくれて、通常の値段よりも安く買うことができた。午後からは、ホストファミリーと動物園に行った。やはり、コアラとカンガルーがたくさんいて、カンガルーにはエサやりを、コアラは抱くことができた。コアラは、意外にも重かった。日本では、見られない動物がたくさん見られてとても楽しかった。

日付	報告者	活動内容
8/17 (月)	久保田 美春	授業に参加しました。オーストラリアの人々はとても親切で上手な日本語でたくさん話しかけてくれました！私も話が通じた時はとても嬉しかったです。また私がしていたadidasの腕時計から「かわいい！」「日本では安いの？」「私も日本に行きたい」と会話がはずみました。思いがけないところから話のきっかけができたのでびっくりしましたが、その子と仲良くなれ、別れの際にはグータッチをして別れました。とても可愛い子でもう一度一緒に授業がしたいと思いました。
8/18 (火)	政田 澪花	今日は学校で同じ授業を2回経験しました。日本語の授業は違う学年でも同じ内容をすることに驚きました。家ではマザーがカレーうどんを作ってくれました。箸まで用意してくれて、皆に私の箸の持ち方をまねして食べるよう言つたので、とても緊張しました。夜は妹とシンデレラのビデオと一緒に観ました。
8/19 (水)	塙本 真由	今日は、8年生の授業に参加。私の隣の席の男の子は、とても親切で色々なことを教えてくれた。午後からは、ハンピーボング小学校を訪問した。一人の女の子が私に学校のことをたくさん説明してくれて、お昼ご飯も誘ってくれた。また、ゲームをしたときは盛り上がり、ハンピーボング小の生徒たちは、とても積極性があった。
8/20 (木)	安重 百華	今日はスカーパラ小学校。こちらの生徒もとても元気でフレンドリーだった。ヘビやカエルなどの動物を見たり触ったりした。カエルは大の苦手なのでとても怖かった。生徒たちと一緒に話したり外で遊んだりした。仲良くなった子がホットドックを買ってくれた。小さい子と手をつないで教室へ帰った。家ですき焼きを作つてあげた。うどんも入れた。お父さんは3杯くらいも食べてくれた。みんな大好評！よかったです。
8/21 (金)	阿座上 里帆	今日が学校で過ごす最後の日となった。ハイスクールの人達は、みんな優しくて、明るくて、楽しくて、良い人達ばかりだったと思う。私はハイスクールでたくさんの友達を作ることができた。“ステップ・アップ・プログラム”では、小学生も来て、習字をしたり、私は浴衣の着付けをしたりした。とても可愛くて、みんな喜んでくれた。最後の“さよならパーティー”では、私達は“にんじやりばんばん”的ダンスを披露し、私達のバディも一緒に踊った。最後の学校での1日はとても心に残る素敵な1日となった。

日付	報告者	活動内容
8/22 (土)	阿座上 里帆	ホストファミリーと過ごす最後の休日は、私と美春ちゃんとそれぞれのバディと私のホストファザーでモートンベイを出て、ブリスベンの町に出かけ買い物をした。ブリスベンの町は人がたくさんいて、とても賑やかだった。また、たくさんの店が並んでいて、可愛い服屋や雑貨屋がたくさんあって、私はたくさん買い物をした。夜は山に登って夜景を見た。夜景を見てあんなに感動したのは初めてだった。そのぐらいとても美しいものだった。また、星もすごく鮮明に見えてきれいだった。帰りは食品市場によつて、晩御飯を食べた。パンケーキとフライドポテトを食べたが、とてもおいしかった。最後の休日は、これまでの日々の中で一番楽しい1日だった。
	畠邊 夏季	Lone pine 動物園に行くと、安重さん一家に出会い、2家族でまわりました。コアラを抱っこしたり、タスマニアデビル、ウォンバット、カンガルーと写真を撮ったりしました。オーストラリアならではの動物を見てとても興味深かったです。
8/23 (日)	安重 百華	今日はお別れの日泣きそうになった1日だった。家を出る前に、色紙や折り紙、習字セットをプレゼントした。色紙には家族みんなの名前に漢字をあてたもの、カーラーへの手紙、家族みんなへのメッセージ“愛”“絆”を書いた。合計5枚でちょうど1人1つずつ。それを持って記念撮影。お母さんは泣いてくれた。本当にありがとう。涙出しそうだったけど笑顔でお別れできてよかったです。ずっと忘れない。大好き！
	阿座上 里帆	今日でホストファミリーとお別れ。家を出発するとき、ホストマザーが手作りのプレスレットをくれた。嬉しくて涙が出しそうだった。そして、最後の別れのとき、バディのクリスティーナがフォトブックをくれて、見てみると、ホストファミリーみんなからのメッセージが手書きで書いてあった。そこで、私は我慢していた涙が溢れ出してしまった。みんなが私を抱きしめてくれた。ここにまた来たいと心から思った。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいだった。
8/24 (月)	久保田 美春	飛行機の中では3時間しか寝ることができませんでしたが、無事に到着しました。長谷川先生には本当にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。お母さんが厚狭駅に迎えに来てくれ、久しぶりに顔を見るとやはり安心しました。みんなと離れるのは寂しいです。
	畠邊 夏季	福岡空港に着き、たくさんの日本人を見て、日本語を聞いて、帰ってきたんだと実感しました。この12日間は、言葉で言い表せないくらいとても素晴らしい体験をしました。たくさんの感動とたくさんの感謝の気持ちで帰宅の途に着きました。



あざかみ りほ
阿座上 里帆
(龍王中学校 3年)

■計画(PLAN)

私は、今回の派遣にあたり、次のことを頑張りたい。一つ目は、オーストラリアの生活の中で、たくさんの習慣や文化に触れていくことだ。二つ目は、たくさんの人の関わりの中で、つながりを深め、英語力、コミュニケーション力を高めることである。この二つの目標を達成するために、自分から積極的に行動し、オーストラリアでの生活を有意義に過ごしたいと思う。

■行動(DO)

出会う人たちは、積極的にあいさつをした。オーストラリアの生徒達は、日本語で「こんにちは！」とあいさつしてくれ、とても嬉しかった。また、分からぬことや、興味を持ったことは、積極的に自分から聞くようにした。その他には、家で料理などの手伝いをしたり、学校では、好きなものや趣味などを聞いて、少しでも相手との距離を縮められるように努力した。また、会話がうまく出来なかつたときや、成り立たなかつたときは、電子辞書を使ったり、ジェスチャーをしたりして、表現するようにした。

■評価(SEE)

☆80点

私は普段、初対面の人には、あまり自分から話しかけられない性格だけど、今回の派遣事業では、自分では考えられないくらい、積極的に活動をすることができた。でも、私の英語力のなさで、伝えたいことを思うように伝えられなかつたことも多々あったので、そこはこれから自分の英語力を磨いていくこうと思った。また、私はオーストラリアで、たくさんの習慣や文化を見つけ、それらに触れていくことが出来たと思う。日本との違いもたくさん見つけることができた。後悔したことも少しあつたが、この経験が私の自信に繋がつたと思う。

オーストラリアの人々と接して

私は今回の海外派遣でたくさんの経験をし、その中でたくさんのことを学ぶことができました。出発前はオーストラリアでやつていけるかどうかたくさんの不安もあつたけど、去年の先輩方も「大丈夫、なんとかなる。」とおっしゃっていたので、その言葉を胸に自分なりになんとか頑張っていこうと思いました。初めての外国の学校は、日本の学校と違うところがたくさんあり、驚くことばかりでした。髪型も自由だし、ピアスをしている人がほとんどでした。しかし、それが原因で、学校自体の風紀や、印象が乱れているわけではなくて、生徒1人1人の個性を大事にし、生徒の意見を尊重した、良い学校でした。

学校では、主に日本語の授業に参加しました。最初はクラスのみんなの話すスピードについていけず、戸惑いの連続でした。でも、だんだん慣れていくうちに、会話中の単語も聞き取れるようになったし、生徒たちは、私が英語の分からない時、携帯の翻訳機を使って見せてくれました。とても助かりました。また、私のバディや、妹は日本に何度か来たことがあります、日本がとても好きで、日本語もとても上手でした。だから、私が英語で表現出来なかつたとき、「日本語で言っていいよ。」と言ってくれて、私が日本語で言うと、理解してくれました。家ではホストファミリーがたくさん日本のこと聞いてくれたり、逆にオーストラリアのことを私に教えてくれたりと、いつも家の生活は楽しくて充実していました。英語力が全然なかつた私だけど、ホストファミリーがいつも優しく笑顔で接してくれたから、私は1日も辛いとか思ったことなくて、むしろオーストラリアでの生活が楽しすぎて、日本に帰りたくないませんでした。

また、オーストラリアの人達は、みんなフレンドリー



で優しくて、いつも笑顔で良い人達ばかりでした。みんなランチタイムにすれ違ったりすると、「こんにちは！」と日本語でいさつしてくれました。先生方もとても親切で、授業中はもちろん、授業以外の学校での生活の様子もいつも気にかけて下さっていました。

レッドクリフでの10日間の生活は本当に充実していて、楽しいことばかりでした。自然豊かなオーストラリアの中で生活ができたこと、たくさんの人と触れ合えたこと、私にしか出来ない体験がたくさんできて、本当によかったです。そして、出会ったすべての方への感謝の気持ちを忘れずに、この経験を自分の今後の生活、将来の進路選択に生かしていきたいと思います。

ホームステイ報告書



私は、出発2日前にステイ先が変わり、不安がありました。しかし、急な変更にも関わらず、受け入れて下さったOrtega家のみなさんには、とても親切で優しい家族でした。出発前のメールもすぐに返事を下さり、行くのがより楽しみになりました。

ホストファザーは、とても

優しくて、いつも家族を支えていました。また、手先が器用で、フィギュアなどもすごく上手に作っていました。また、映画がすごく好きで、家には映画のDVDがたくさんあって、「はやぶさ」や「ハウルの動く城」などのジブリ映画も数多くあってびっくりしました。私は毎日、ホストファザーとバディと映画を見ていました。私は普段、洋画は見ないけど、洋画もたくさん見せてもらったので、少し洋画に興味が持てました。ホストマザーは、本当に明るくて、優しくて、いつも私のことを気にかけてくれていました。私が家族と会えなくて、寂しくないように、毎日Skypeを使って、私の家族と話す時間を与えてくれました。また、放課後にホストマザーとペットのスパーキーと海に散歩に行つた

時もあって、写真を撮ったり、貝殻を拾ったり、はしゃいだり、すごく楽しい時間を過ごすことができました。本当にホストマザーは私に親切してくれました。バディのクリスティーナは、10日間ずっと一緒に過ごしましたが、学校では一緒に授業を受けたり、モーニングティーやランチの時間はいろいろな話をしたり、バディのたくさんの友達と仲良くなることができました。バディはすごくおしゃれで、一緒に買い物に行ったときは、ボディシールやネイルを買ってきました。休日は主に買い物をして過ごすことが多かったけど、いつも楽しくて、充実していました。バディには本当に一番感謝しています。お姉さんのロシオは、初日に会ったときから、すごくたくさんのこと話して、すぐに仲良くなることができました。日本のアニメ、漫画、歌手、ファッションがすごく好きで、私がプレゼントで持って行ったファッション雑誌を見て、すごく喜んでいました。日本の話をするときは、いつもすごく盛り上がって、笑い声が絶えませんでした。妹のキャシーは、家ではいつも自分の部屋にいたので、あまり話せなかったけど、家族で外出した時は、たくさん話をすることができます。「何の映画が見たい？」とか、いつも私のことを気にかけてくれていました。また、バディが学校で忙しい日はランチタイムと一緒に過ごしたりもしました。そこでまた、友達も紹介してもらって、仲良くなることができました。私がプレゼントしたペンも早速学校で使っていて嬉しかったです。

私がホストファミリーと過ごした中の一番の思い出はやっぱり2日目に行つた、『Australia Zoo』



という動物園に行ったことです。そこでは、オーストラリアで有名なコアラ、カンガルー、ウォンバットを初めて見ることができました。

また、コアラは抱っこして、写真を撮ってもらいました。その写真は、記念にホストマザーが買ってくれました。ホストファザーや、ホストマザーが動物の名前などを1つ1つ丁寧に教えてくれました。ランチはフードコートの様なところで食べました。そこで、いろいろ

な話をすることができました。バディやお姉さん、妹とは写真をたくさん撮って、すごく楽しかったです。家族みんなとも写真を撮りました。私は、2日目に一気に家族との距離を縮めることができたと思います。

初めてのオーストラリアでたくさん緊張や不安もあったけど、ホストファミリーのおかげで、10日間本当に

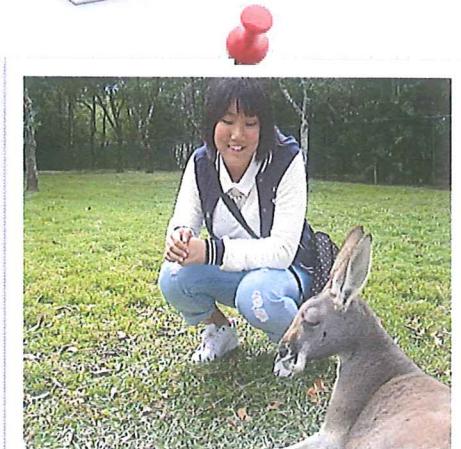


に充実していて、すごく楽しい日々を送ることができました。また、ホストファミリーは私のことを第一に考えててくれて、私のことをいつも気にかけてくれていたので、リラックスして過ごすことができました。

宗教や食文化、生活スタイルなどの日本との違いもたくさん見つけることができました。また、私のホストファミリーのように出身国もさまざまな多民族国家であることも分かりました。日本では体験できないような貴重な体験をすることもできました。

Ortega家のみなさんには本当にお世話になりましたし、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもホスト

ファミリーとの交流を続け、またいつか再会できる日を楽しみにしています。Ortega家は私のもう一つの最高に素敵な家族です！



ホストファミリー紹介

Ortega家

父	Carlos
母	Maria
娘	Rocio
娘	Christina
娘	Cassie



くぼた みはる
久保田 美春
(埴生中学校 3年)

■計画(PLAN)

私は今回の派遣での目標が2つあります。1つ目はオーストラリアの文化を肌で直接感じることです。私は他国の文化に触れることが出来るこのチャンスを生かして世界に目を向けたいと思います。そして日本の良さをオーストラリアの人々に、オーストラリアの良さを日本の人々に伝えたいです。2つ目は今の自分の英語能力を最大限に発揮することです。私が持っている英語の力を一生懸命現地の人々に伝わるように使いたいです。不十分なところもあると思いますが積極的に話しかけ今回の体験を有意義なものにしていきたいです

■実行(DO)

レッドクリフハイスクールでは男女関係なくハグであいさつをされて、早速、文化の違いを感じることが出来ました。生徒たちは私が持っていた電子辞書に興味をもって「何色があるの?」「いくらするの?」と次々に質問してくれました。それを見て「日本に行きたい!」と言ってくれた子もいました。また、私はお米とちらし寿司を作る材料を持って行きました。ホストマザーは沸騰したお湯にお米を入れたり、途中でかき混ぜようとしていたので、私は、お米は冷たい水から炊くことや炊き上げたら少し蒸らすことなど伝えました。みんなで食べたお寿司は一段とおいしかったです。

■評価(SEE)

☆80点

20点の失点の理由は2つあり、その1つは会話の際に翻訳に頼りすぎたからです。バディのジェスとの会話で私が分からなかった文を翻訳してもらい理解することが多く感じました。発音が少し違うにしお聞き取って理解することはとても難しいことでした。

もう1つは自分が日本に対する知識が少なかった

ことです。「日本の何が好き?」と聞いた時、自分の知らないアニメやアーティストの名前がでてきて十分な対応が出来ませんでした。私はまた海外へ行きたくないです。その時多くの外国の方と関わりたいので自分の英語能力を高めていきたいと感じました。

新たな目標がみつかったホームステイ

中学校に入学してからずっと夢だったオーストラリアへのホームステイが終わりました。それは想像していた以上に素敵で10日間でした。日本とは違う生活様式、言葉、習慣、何もかもが私を驚かせました。私は今回参加する目的を2つ決めていました。1つはオーストラリアの文化を肌で直接感じ、そして日本の文化を伝えることです。靴を履き替えない生活、学校では昼食とは別にbreak time(軽食を取る)があること、コンビニで給油もできること、日本とは違う生活を送りました。また、私はホストファミリーと一緒に日本から持参したちらし寿司の材料でお寿司を作ったり、習字を教えたり、折り紙を折って遊んだりして、日本の文化を紹介しました。どれも関心を持ち楽しむことができました。もう一つは「今の自分の英語能力を最大限に発揮する」が目的でした。学校の英語は好きですが、自分の語学の未熟さを感じました。言いたいことが表現できない、伝わらないのは本当に悔しいことでした。でも

私は次に海外

へ行った時

困らないよ

う、また、日

本で外国の

人と話ができる

るよう 英語を学び

続けたいと思いました。帰国後もバディや友達になった子とメールでやりとりをしています。私が帰国する際に渡した手紙を読み、机に並べて帰った折り紙を見つけてとても喜び、そして寂しいと言ってくれています。私が慣れない土地で不安だったときにいつも一緒にいてくれて、心配してくれたジェスと離れて寂しいです。だから、また会いたいという気持ちが強くなりました。必ず成長してジェスに会いに行きたいと思っています。この度このような素晴らしい経験をさせていただき、本当に感謝しています。私を見守って



くださった方、サポートしてくださいました。本当にありがとうございました。オーストラリアで学んだことを無駄にすることなく、これから成長の糧にしたいと思います。

ホームステイ報告書

バディーの Jessica は以前私の家へステイした事があり、また、私の姉が3年前 Taylor 家へホームステイしたことがありました。私はホストファミリーとテレビ電話などをしたことがあったため、会った直後は再会を喜び Jessica と Suzanne とハグをしました。ホストファミリーは姉が言っていた通りフレンドリーで、とても親切な人達でした。兄の Ben は家を離れて働いていたので、ホストファミリーの家に居なくて残念でした。でも Ben のバイト先へ行ったり、家に会いに来てくれたりしました。家に来た際には私と Jessica でち

らし寿司を作つて Ben に食べてもらいました。「おいしい！」と Ben はとても喜びました。家族との思い出は書ききれない程あります、その中で 1 番私が楽しかったのは、一緒にホストファミリーと習字をしたことです。“健康”“幸せ”“家族”などホストファミリーが書き

たいと言つた言葉を日本語に翻訳し私がお手本を書いて、それを見ながら書いてもらいました。1番みんなと笑つたことは Jessica の書きたい言葉が“お金”だったことです。“お金”と日本語で書き下に money と書き加えていました。また、Ben のガールフレンドの誕生日が来週だからと、“幸せな誕生日”と書き「プレゼントしてあげる」と喜んでいました。ジェスが習字で書いたバースデーカードを受け取り彼女は驚き、また喜んでくれることでしょう。日本のお寿司と一緒に作つたり、伝統文化の習字と一緒に書き国境を超えて一緒に過ごした素敵な時間でした。



ホストファミリーの紹介

Taylor 家

父 Joh
母 Suzanne
娘 Jessica
息子 Ben (別居)



つかもと まゆ
塙本 真由
(高千帆中学校 3年)

■計画(PLAN)

英語でコミュニケーションをとることは初めてで、とても不安だが自分の使える英語を使い、身振り手振りを交えて恥ずかしがらず、積極的にコミュニケーションを取る。また、わからないことや疑問に思ったことは、すぐに聞くようにし、自ら行動するようにする。

日本との文化、衣食住の違いを見つけ、山陽小野田市の魅力を伝えるようにする。

■実行(DO)

使える単語を組み合わせてたくさん人と積極的に会話した。わからない単語は、すぐに電子辞書で調べ、伝わりにくかったことはジェスチャーで表現した。

レッドクリフハイスクールの生徒やホストファミリーは、日本のことにも興味を持ってくれ、折り紙や習字に興味津々だった。そして、ホストファミリーたちと地図やインターネットを用いて、お互いの国 文化を教え合うことができた。また、オーストラリアの人々は親切で、私たち派遣生をとても歓迎してくれた。

■評価(SEE)

☆80点

積極的に話しかけること、ジェスチャーを使うことはできたのだが、英語で会話することは、思っていた以上に難しかった。現地の英語はとても速く、アクセントの違いなどから聞き取れなかったり、言っている意味が分からず戸惑うことが何度もあった。事前に勉強しておいた会話表現あまり使うことができなかった。この経験から、日頃の英語の勉強にもっと力を入れた方がよいと感じた。そして、しっかり英語力を身に付け、2回目海外に行くときは英語での会話が弾むようにしたい。

オーストラリアの人々の親切さ

私は、初日のレッドクリフハイスクールの授業に参加した時、みんなの英語が早すぎるため、聞き取れ

ない部分が多くあり、不安でいっぱいになりました。しかし、私たち派遣生には、ゆっくり話してくれるので、私の不安もすぐに消えました。どの生徒も親切で、私の電子辞書を使って単語の意味を教えてくれる生徒や、使える日本語を使って説明してくれる生徒もいました。

私たちは、日本語の授業に参加しました。日本語の授業は、学年が上がるにつれて難しくなっていて、11年生、12年生は、日本語を使って話す生徒が多くてすごいなと思いました。どの学年の授業もグループでの活動が多かったです。7年生、8年生は、とても授業に積極的で、手を挙げて自分の意見を発表する生徒が大勢いました。また、私たちに日本のことを見せてもらったり、日本語を調べながら日本語で質問してくれる生徒もいました。ジェスチャーを交えてわかる単語を使って答えてあげると、真剣に聞いてくれ、さらに質問してきました。そのため、初対面の人と今まで以上に積極的に話せるようになりました。

オーストラリアの学校では、2時間目が終わった後モーニングティーという時間があります。ランチタイムもありますが、この時間も自分が持ってきたお弁当を食べます。日本の学校にはないことなので驚きました。また、日本の学校のように教室で食べるではなく、外で食べたり、自分たちの食べたい場所で食べます。私は、バディのTiaraとその友達と一緒に食べました。そこでは、学校のことやオーストラリアの食べ物のことを教えてくれました。初対面にも関わらず、私をメンバーの一員としてくれて、みんなとたくさんのこと話をすことができました。



この10日間で、少しではありますが、自分の英語能力、コミュニケーション能力を上達させることができました。現地の英語に触れることで、英会話の知識、

国によるアクセントの違いを学ぶことができました。この経験から、英語を学ぶことは将来につながる大切なことだと感じました。だから、私は、将来英語にかかわる仕事につきたいと思いました。この夢をかなえるためにもっと努力し、しっかりと勉強して、またこの地に足を踏み出したいです。

ホームステイ報告書

ホストファミリーは、とても親切でやさしい方々でした。バディの Tiara は、いつも私を気にかけてくれて、買い物をする時もお金の計算の仕方などを教えてくれました。私が言葉がよくわからず戸惑っているときも、翻訳機を使って訳してくれました。

家には、クルーザー、プールがあり、クルーザーの広さには驚きました。ホストファミリーはクルーザーに乗って、イルカを見たりするそうです。家の中での会話は楽しく、オーストラリアのこと(ブリスベンや先住民アボリジニのこと)を教えてもらい、たくさんの知識を得ることができました。ホストファザーはタイに出張に行くことが多く、タイのことも教えてもらいました。私も持参した山陽小野田市のパンフレットや地図を用いて自分の住んでいる地域のことを伝えると、田んぼの多さに驚いていました。

ホストマザーは、仕事で忙しいのに、よくスーパー・マーケットに連れて行ってくれ、オーストラリアの食べ物をたくさん買ってくれました。「私がお土産を買いたい」と、言うと色々な店を回ってくれ、一番安いお店を見つけてくれました。

ホストファミリーは色々な所に連れて行ってくれ、様々な体験をすることができました。学校から帰ったら、サイクリングに行ったり、トランポリンをしたりしました。サイクリングは、海沿いの道を走りました。道路が広く自転車専用の道がありました。テレビなどで、

外国の道にはゴミがたくさん落ちていると聞いたことがあります。が、ゴミは一つも落ちてお

らず、日本よりもきれいでした。いたるところにゴミ箱が設置されているので、きれいさが保てているのだと思います。トラポリンはたくさんの種類があり、専用の靴下をはいて飛んだり走ったりしました。Tiara 、 Josie 、 Drew そして私は、大いに盛り上がりながらトランポリンを楽しみました。休日には、ショッピングモールや動物園に行き、観覧車にも乗りました。動物園では、日本で見られないオーストラリアならではの動物をたくさん見ることができました。そのときホストファミリーチたが、動物の名前や特徴を教えてくれ、オーストラリアのことをより一層知ることができました。特に、コアラを抱けたことは、良い思い出となりました。観覧車は日本と違い、回数制ではなく時間制なので何回もまわりました。観覧車から眺めたブリスベンの景色は、とても美しいものでした。

異文化を体験するだけではなく、日本の文化も体験させてあげました。まず、日本のお菓子を食べさせてあげました。金平糖は甘くて美味しいと言ってくれたのですが、干し梅は苦手のようでした。ホストファザーは、食べた瞬間面白い声をあげ飛び上がりました。このような味は、オーストラリアにはないみたい

です。Tiara に浴衣を着せてあげると、気に入って喜んでくれました。また、Tiara 、 Josie 、 Drew と習字や折り紙もしました。私が持参した大きな半紙、大きな筆に驚き、たくさんの文字を書きました。3人は、折り紙にとても興味を持ち、折り紙の本を見ながらたくさんのものを折り



ました。折り紙の本は、日本語で書かれているので、読めないところは訳して説明してあげました。そうすることによって、英会話能力が高まったと思います。Drew は覚えが早く、次々に色々なものを折っていました。3 人とも私より上手かもしれません。

帰る前日、ホストファミリーがたくさんのお土産をくれました。それまでにもたくさんものものをもらって



いたので、感謝の気持ちでいっぱいでした。

まだまだここに書きつくせないほどの体験をホストファミリーと経験しました。これからもホストファミリーとメールなどで交流をしていきたいです。この一家で過ごせた 10 日間の思い出は一生忘れません。そして、帰るときに Tiara と約束した「また会おうね」という約束を果たしたいです。



ホストファミリーの紹介

Mathison 家

父	Paul
母	Tracy
娘	Tiara
娘	Josie
息子	Drew



はたべ なつき 畠邊 夏季

(小野田中学校 3年)

■計画(PLAN)

このホームステイに参加するにあたっての目標は2つあります。1つめは英語で自分の言いたいことをうまく伝えること。そのために積極的に現地の人と関わりたいと思います。2つめは、お互いの国の良いところを教え合うということです。このホームステイでホストファミリーはもちろん、現地の学校の生徒にも日本の良さを伝え、帰ってきたら、日本のみんなに経験したことを伝えたいです。このホームステイを通して英語によるコミュニケーション能力を上げて、成長して帰ってきたいと思います。

■実行(DO)

とりあえず、たくさん的人に英語で話しかけました。学校内で目が合えば、知らない生徒にも「Hello!」と声をかけ、話ができたら、自分の名刺を渡したり、ちょっとしたプレゼントを渡したり、とにかくたくさんの友達を作ろうと心がけました。皆、話してみると日本に興味があり、親日家だと感じました。日本語の授業では、積極的に声をかけ、日本語を教えることができました。英語でのコミュニケーションがとても楽しかったです。

■評価(SEE)

☆120点！

やり残したことではないと感じるくらい、とにかく積極的に行動し、楽しみました。勇気を出していろんな人に話しかけるのは、とても楽しかったです。世界が身近に感じ、スカウトジャンボリーで友達になった子が住んでいるインドやマレーシアなどいろんな国へ行ってみたいと思いました。

I appreciate it!

私はオーストラリアで貴重なたくさんの経験をしました。初めてのホームステイ、学校へ行って英語で授業を受け、たくさん友達を作りました。休日には、

動物園でコアラを抱っこしたり、市場へ出かけたり、バディが出演したライブハウスでダンスしたり、遊園地にも連れて行ってもらいました。毎日楽しいことばかりでした。でも一番心に残っているのは、バディのJulietととても親しい友情を築くことができたことでした。彼女は毎日私の部屋へ来て、寝る直前まで一人になる時間がないくらいずっと一緒に過ごしました。おしゃべりをしたり、一緒にリビングで映画を見たり、毎日夜遅くまで二人で楽しく過ごしました。

私はホームステイにむけて、山口市で行われていたスカウトジャンボリーなどへ出かけて、積極的に外国人と話す機会を作ったり、外国人の友達と遊びに行ったりしていたので、思ったより聞き取りはできると



感じました。それでも最初はやはり、ネイティブ同士の会話は早く、長くてなかなか難しいと感じました。でも学校では生徒や先生に積極的に話しかけ、学校生活をとても楽しむことができました。オーストラリアの生徒達は、皆明るく、とてもフレンドリーで話しかけやすく、親目的で

す。歩いている

とハンドボ

ールに誘

われたり、

学校内で

迷子になっ

た時に声をか

けた子は親切に教

えてくれたり、習字の授業で私の筆が無くなった時

は、みんなが一生懸命に探してくれました。日本語

の授業では、私から積極的に声をかけてまわり、皆

に日本語を教えて回りました。そして彼らは、英語やオーストラリアの魅力を教えてくれました。私も折り

紙などで、精一杯日本の魅力を伝えてきました。私は持て行つた自分の名刺100枚を全て配りました。

その後、メールなどでやりとりをしていますが、英



語で会話できることがとても楽しいです。

最終日のさよならパーティでの出し物のダンスは大成功で、皆一緒に踊ってくれました。私のバディは、まだ踊りたいと言ってとても楽しんでくれました。

最後の挨拶の言葉は、私が言うことになっていたので、感謝の気持ちを込めて発音に気を付けて挨拶をしました。たくさんの人たちが私達をとても歓迎してくれて、本当に素敵な思い出がたくさんできました。レッドクリフ・ステート・ハイスクールに来ることができて、本当に幸せだと感じました。そして感謝の気持ちでいっぱいです。

このホームステイで日本のこと忘れくらいいしく過ごせたのは、いつも優しく気遣ってくれたバディと



ホストファミリーのおかげです。そしてこのような貴重な体験ができる機会を与えて下さった山陽小野田市の方々、送り出してくれた学校の先生方や家族、優しく見守って下さった引率の長谷川先生や、一緒に楽しみ、そしてがんばった仲間達に感謝の気持ちでいっぱいです。国際交流に必要なことは、日本人は苦手かもしれません、一歩踏み出す勇気、そして相手のことを思いやる心だと学びました。今後もこの経験を生かして、積極的に外国人人と交流し、日本の良さを伝えていきたいと思います。

ホームステイ報告書

私のホストファミリーの Booth 家は、皆日本が大好きで、家族で何回か来日もしている親日家でした。家の中には日本の絵画や壺などが飾ってあり、とてもセンスの良い家だったので、いつも快適に過ごすことができました。家にはプールがあり、庭も広くとても開放的な作りで景色も良かったです。

Father は家で仕事をしていて、いつも『お腹はすいていないか? のどは乾いていいないか?』と優しく気遣ってくれました。動物園に行ったときに、コアラを抱っこするのを迷っていたら、スタッフ歩いて抱っこするチケットを買ってきました。とてもうれしくて心からお礼を言いました。

Mother は、私を本当の娘のように扱ってくれました。建築設計の仕事をしている Mother は忙しかったと思いますが、時間のある時は一緒にスーパーマーケットに行ったり、お土産を買ってくれたり、一緒に映画やドラマを観たりしました。そして、ご飯が毎日とても美味しかったです。私も肉じゃがを作ったら、みんなとても喜んでくれました。Mother の話はとても面白くて、いつも笑い合っていました。最後の日には、『あなたは私の娘で家族よ。』と言って抱きしめられました。

バディの Juliet は、歌やダンスが好きで、共通の話題が多く、とても明るく楽しい性格なので、すぐ意気投合しました。彼女のおかげで毎日とても楽しく過ごせました。Juliet は毎日夜中まで、私の部屋に来て、一人でいる時間が



ないくらい一緒に過ごしました。日本語と英語を教え合ったり、たわいもないおしゃべりがとても楽しかったです。おそろいのアクセサリーも買いました。お別れの日、Juliet とは何回もハグをしました。彼女は、私がいなくなるので泣いてくれました。私は、なんとか一人の時間ができたときに、こっそり Juliet の似顔絵を描いていて、それを渡したらとても喜んでくれました。Mother と Father にも手紙を渡しました。私は、精一杯 Booth 家の一員の時間を大事にし、楽しみました。ペットの猫と犬もすっかりなついてくれました。来月、Juliet は日本に来る予定なので、是非会いたいと思っています。Booth 家は私のもう一つのかけがえのない家族になりました。また必ず私は Booth 家を訪れるでしょう。本当にありがとうございます。



ホストファミリーの紹介

Booth家

父	Christopher
母	Ana Da Sirva
娘	Juliet



まさだ みおか
政田 澪花
(厚陽中学校 3年)

■計画(PLAN)

今回の海外派遣事業での目標は3つあります。1つ目は、日本とオーストラリアの文化の違い、生活習慣の違いを見つけること。2つ目は、現地の人と積極的にコミュニケーションをとり、たくさんの人と交流することです。3つ目は、この派遣事業で英語の会話能力を高め、これからの学校の授業に生かせるようにしたいです。この3つの目標を達成するために、恥ずかしがらないで自分から積極的に話しかけ行動することを心がけます。

■実行(DO)

恥ずかしがらないで自分の意見を積極的に話した。朝と夜のあいさつは自分からするように心がけた。英語で話すことは難しかったが単語を組み合わせて相手に理解してもらえるように頑張った。学校でも生徒に自分から話しかけた。日本とオーストラリアの文化の違いを見つけるために質問をしたりした。文化の違いを体験出来たことはとても貴重な経験となった。コミュニケーションが取れるようにたくさんの人と交流した。会話は時間がたてば自然に伝わるようになっていた。

■評価(SEE)

☆80点

オーストラリアに来たばかりの頃は英語の聞き取りが全然出来なくて、自分の思っている事を表現することが難しかった。行く前に日常で使う単語をもっと勉強していくべき良かったと後悔した。しかし、ホームステイのおかげで英語の楽しさがわかりました。ホストファミリーとの生活は毎日が楽しく日々過ごす中で自分の英語の上達を実感する事が出来ました。皆とのコミュニケーションが取れるようになったことで自分に自信を持つ事ができたと思います。文化の違いで驚いたのはトイレに鍵がなく、安心してトイレ

に入れなかった事がありました。英語が不十分でホームステイに行った私でもあきらめずに頑張れば相手にきちんと伝わることがわかり嬉しかったです。この体験から学んだことをこれから学校生活に生かし、これからも様々な事に進んで挑戦していきたいと思います。

充実した10日間 ～一生の思い出～

私はオーストラリアでたくさんの経験をしました。たくさんの人との触れ合い、日本とオーストラリアの文化の違いを学ぶことが出来ました。私は英語力に自信がなく、きちんと相手とコミュニケーションが取れるか自信がありませんでした。でも勇気を出して自分から行動したことで多くの刺激を受けました。

その中で
も印象に残
っているの
が、学校の
授業の様子
です。授業で
は1度に多く
の生徒が積極



的に手を挙げて発表していました。発言の多さにビックリしました。授業では先生の会話のスピードがはやく聞き取りにくかったですが先生が生徒に話す時と私たちに話す時で発音を変えてくれたので聞きやすくなりました。小学校に訪問した時には生徒が電子黒板、iPadを使って学習している事に驚きました。iPadでは生徒1人1人に合わせて学習する事が出来、ゲーム感覚でしているので楽しそうに日本語を学習していました。日本とオーストラリアで授業の様子の違いを見つける事が出来、刺激を受けたことをこれからの学校生活に少しでも役立てるように頑張ります。

10日間、私が1度も寂しいと感じることなく笑って
過ごせたのはホスト

ファミリーの皆
が明るく笑
顔で接してく
れたからで
す。伝わらな
いときは単語やジ



エスチャーでコミュニケーションを取り、分かり合えるまで接してくれました。最初は自信がなかった会話も勇気を出して発言、行動をすれば相手にきちんと伝わる事がわかりました。この素晴らしい海外派遣の機会を与えて貰えたこと、体験が出来たことに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

ホームステイ報告書

私のホストファミリーは3人家族です。ホストファミリーはみんな優しかったです。マザーのJoolieはとても明るく私をいつも気遣ってくれました。私のバディのJadaは1才年下で、妹にすごく優しいお姉ちゃんでした。妹のRyleeはとにかくやんちゃで甘えん坊でした。

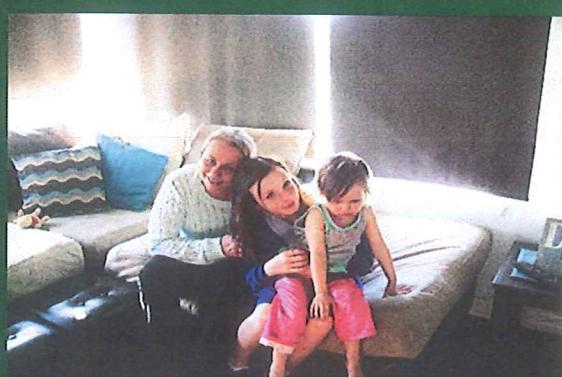
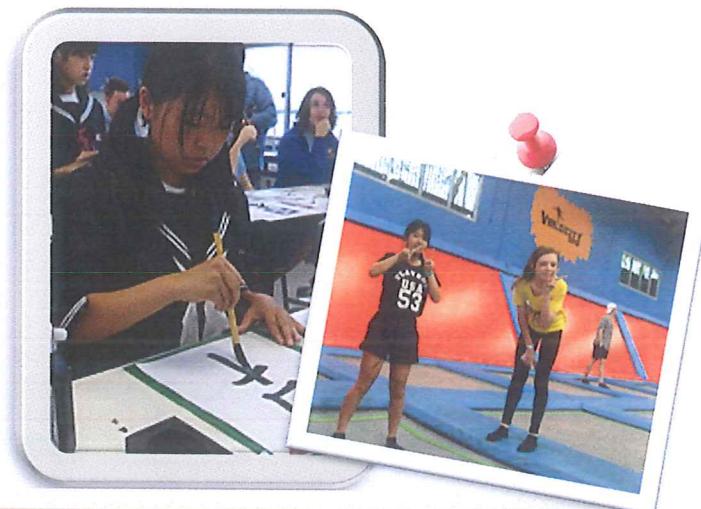


家では一緒にパズルをしたり、カップケーキを作りました。私が淋しくならないように、いつも一緒にいてくれました。マザーは私と会話が出来るようにゆっくり喋ってくれました。一生懸命に私のために日本食を作ってくれました。Jadaはおしゃれで私の髪を結ってくれました。英語が分からないときは単語とジェスチャーで私が理解するまで教えてくれました。妹は毎日抱っこしてと大変でしたが、妹のおかげで毎日が刺激的でした。

Jadaはおしゃれで私の髪を結ってくれました。英語が分からないときは単語とジェスチャーで私が理解するまで教えてくれました。妹は毎日抱っこしてと大変でしたが、妹のおかげで毎日が刺激的でした。

休日にはみんなで一緒にトランポリンに行ったり、マザーの友達の家に泊りに行きました。夕方から釣りをしたり、夜はキャンプファイヤーをしました。放課後はJadaとカフェに行ったり、幼稚園に妹を迎えて行きました。最後の休日にJadaが足を骨折して入院したので心配でした。オーストラリアにいた10日間は毎日がとても充実していてあっというまででした。帰国する日、マザーと一緒に病院に行ってJadaとお別れをしました。お別れは涙が止まりませんでした。「日本にホームステイに行くから待っててね」と言っていました。そして手作りのアルバムを貰いました。私が不安や寂しさを感じなかったのはホストファミリーの皆が本当の家族の様に接してくれたからだと思います。この10日間は私にとってもう1つの家族が出来たと思うくらい素敵なお日々でした。

お世話になった皆さんに感謝でいっぱいです。これからもホストファミリーと交流を続け、また会える日を楽しみにこれからも頑張って行きます。とても良い経験と思い出が出来たことに感謝しています。



ホストファミリーの紹介

Pattinson家

母 Joolie
娘 Jada
娘 Rylee



やすしげ ももか

安重 百華

(厚狭中学校 3年)

■計画(PLAN)

- ・チャレンジ精神を忘れず、ジェスチャーと表情を交えながら積極的に現地の人と対話して言語能力を向上させるとともに、言語を超えたコミュニケーション能力も高め、常に自信を持って人と接することができるようとする。
- ・日本とオーストラリアの文化や習慣の違いを肌で感じることを通して視野を広げるとともに、日本との共通点も見出し、それを現地の人と共有する。
- ・さまざまなことに積極的に挑戦して、感じ、学び、中身の濃い派遣活動にする。

■実行(DO)

現地に着いて間もない頃は、まだ英語に慣れておらず、聞き取りづらかったため、必然的にジェスチャーと表情で会話を成り立させていた。英語に慣れ、私の英語も格段に伝わるようになってからも、言葉を超えた気持ちや意志が伝わるようにジェスチャーと表情、アイコンタクトは欠かさないよう心がけた。日本や山口県、山陽小野田市、私の通っている厚狭中学校などを、ときには地図や画像、ホームページを使って相手に伝わるように工夫しながら紹介した。反対に、現地の人たちも、写真を見せてくれたり、絵を描いてくれたりして、オーストラリア特有の文化、自然についてとても一生懸命に教えてくれた。それは同じだ、ここは違うんだ、と整理しながらオーストラリア、日本の素晴らしいを共有することができた。

■評価(SEE)

☆85点

さまざまな相違点を見つけるなかで、絆を大切にする気持ち、平和を愛する気持ち、家族と思う気持ちを感じることができた。国境を超えて、変わることのない想いがあることを再確認できた。英語が伝わらなくても、ジェスチャーと表情を交えながら会話することができた。今回の経験を生かして、もっと英語

の勉強をしようと思った。海外にもっと興味をもったし、将来の選択肢が広がったように思う。

私にくれたもの

オーストラリアでの日々が今でも昨日のことのように鮮明に思い出されます。

早朝、たくさんの鳥たちのさえずりが聞こえてきました。それは心地よく、どこか日本のように、懐かしく感じられました。部屋のカーテンを開けると、声の主である鳥は、日本にはまずいないような、さまざまな色をしていて、目にも鮮やかでした。ああ、そうだ、ここはオーストラリアだ。



学校もそうでした。一番印象的だったのは、生徒たちは、個性豊かで、自由に、ありのままに、自分を表現しているのに、きちんと調和していること。でも、みんなと接するうちに、それは、みんながお互いを尊重し、認めているからだと気づきました。海外にいる私から見れば、日本にいるときの私は、自分という存在をできるだけ抑えて、息をひそませて生活している、とさえ思いました。オーストラリアと日本では考え方や感じ方に大きな開きがあることは重々分かっていたつもりでしたが、ここまでとは思っておらず、かなり衝撃を受けました。

レッドクリフ・ステート・ハイスクールの生徒たちはフレンドリーで優しく、授業に真剣に取り組んでいました。日本語の授業も凝っており、レベルも高くて驚きました。班の中に混じって授業を受けたときは、自己紹介し合ったり、質問し合ったりしました。誕生日や趣味が同じだと分かって盛り上がりしました。たくさん的人が、すれ違いざまに手を振ったり、ハグしてくれたりしました。昼休みには、バディやバディの友達たちと外で弁当を食べました。また、毎週金曜日には音楽が流れるらしく、私もみんなに誘われ踊ったこ

とありました。たくさんの友達に囲まれて、みんなあたたかくて、私は本当に幸せでした。

小学校での経験も忘れられません。生徒たちと手をつないで学校内を歩いたこと、まだ背の小さい小学生が、私のためにホットドックを買ってくれたこと、そしてそれが無性に美味しかったこと。言語は違っても、想いは万国共通だということを教えてくれました。

ここに書ききれないくらいたくさんの思い出をくれました。そして、ここに書ききれないくらい、感謝の気持ちでいっぱいです。すべての経験が今の私に繋がっています。そして、きっと、これから私の支えてくれるものになると確信しています。この事業を支えてくださった山陽小野田市民のみなさまのためにも、もっともっと成長して、一皮も二皮もむけて、山陽小野田

市に恩返ししたいと思いま
す。本当にありがとうございます。
いました。

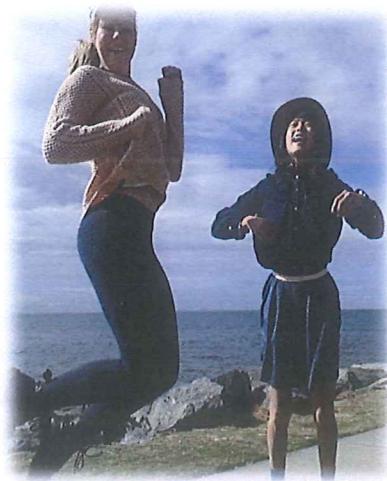


ホームステイ報告書

ホストファミリーは5人家族で笑顔の絶えない温かい家庭でした。現地に着いてすぐ休日だったので不安だったけれど、気にすることはありませんでした。

ホストファザーの Stuart は大工さんで、マザーの Megan は料理と手芸が上手でした。二人とも、私のことをいつも気にかけてくれたおかげで、安心して過ご

すことができました。バディーの Karla は、いろんなお話をしてくれて、簡単に打ち解けられました。小さい子のお世話が大好きな私は、妹



の Talia ともすぐ仲良くなれました。弟の Luke はゲーム大好きで、シャイでしたが、話しかけるところをしてくれました。

振り返ると、家族との思い出でいっぱいです。大きなショッピングモールに行ったり、ビーチのそばのマーケットに行ったり、おじいちゃんの60歳の誕生日パーティをしたり、バーベキューをしたり、エミリーの誕生日パーティに行ったり、Zoo 行ったりしました。一日一日が楽しくて仕方がありませんでした。

Karla が、私のバックに『ひつじのショーン』のストラップがあるを見て、「ショーンの映画をみよう！」と言ってくれました。マザーと Karla と三人でゲラゲラ笑いながら見たことは今でも忘れられません。Karla と卓球したり、Luke や Talia とお土産で持ったポケモンの UNO でゲームしたり、地図や画像、ホームページを使って日本について教えてあげたり、Karla と日本語の勉強をしたりしました。Karla といふと笑いが止まらなくて、楽しくて、ホームステイの1週間はあっという間でした。



私からのお礼として“すき焼き”を作つてあげました。鍋いっぱいにあったのをペロリとたいらげてくれました。みんな美味しいと褒めてくれました。特にファザーは「No. 1！」と言いながら、3杯おかわりしてくれました。

最後の日は、習字を教えてあげました。Talia も Luke も興味を持ってくれて、家族みんなで書きました。みんなセンスがあって、おもしろい作品になりました。書いている間中もずっと笑いが絶えませんでした。そ



してついにやってきたお別れのとき。私は家族に5枚色紙を渡しました。習字で書いたものや、手紙などです。マザーはそれを見て泣いてくれました。おもわず私も泣きそうになりました。どんな時もそばにいてくれたバディの Karla や家族の存在の大きさを改めて強く感じた瞬間でした。私の大好きな Karla の夢は外交官だそうです。私も夢を見つけて、そして必ず夢を叶えて、再会しよう、そう思いました。

私の大好きな家族、ありがとう。



ホストファミリーの紹介

Coppell家

父	Stuart
母	Megan
娘	Karla
息子	Luke
娘	Talia



はせがわ たかこ
長谷川 敬子
(小野田中学校教諭)

中学生海外派遣事業 帰国報告書

4年ぶりのオーストラリア。季節は冬。冷たい空気がやや肌身にしみた。ブリスベン空港に降り立った瞬間、目の前の景色は4年前と何も変わっておらず、懐かしささえ感じた。幸運にも海外派遣事業の引率教員として、1回目は小学校教員の立場で、今回は中学校教員及び英語教育推進教員としての立場という異なる目線で様々なことを感じ、経験することができた貴重な研修となった。また、懐かしい先生方との4年ぶりの再会を果たすこともできた。今回の日程調整を行ってくださったTim先生とは、先生がScarborough小学校で勤務されていた時に出会い、一緒に動物園を訪問するなどの交流をした。私の持参した4年前の写真を見ながら、思い出話にはながさいたひとときであった。同じくHumpyong小のGilkes先生もご一緒し、お元気そうな姿に元気をいただいた。(動物園に訪問の際に足をけがされていて、松葉杖で移動させていたからである。その話をするとタイムスリップしたように様々な思い出話も出てきた。)日本語教室も和室もかわいい庭園も以前の訪問のままであり、4年という月日を感じないまま、早速、授業に入っていた。



今年は、日本語教師であるフリスビー先生が休まれており、前回とは研修内容が違っていた。主として、私たちがお世話になるレッドクリフ・ステート・ハイスクールで日本語の授業を受けて過ごした。ハイスク

ールが拠点であったことで、ホームステイ先で有意義な時間をとることができたようである。生徒たちは、タウンセンド先生とティム先生の授業を中心に、日本語の授業をハイスクールの生徒たちと共に受けた。生徒にとっては、オーストラリアでの生の英語を学ぶよい機会になったと思う。先生方も日本の生徒には英語を学んで欲しいと言われていた。英語を学びながら、ハイスクールの生徒に日本語を説明する。初めは、緊張している様子も見られたが、次第に打ち解け合い、笑顔で会話を交わす姿が見られるようになっていた。

日本と違い、ハイスクールは、7年生から12年生(日本の中学1年生から高校3年生)が在籍している。



日本語の授業にもいろいろな学年の生徒が来て、学んでいく。ちょうどテスト前ということもあり、生徒たちはテストに向けて聞く、話す学習を中心に行っていた。12年生になると、アルバイトをテーマにまず日本語で作文していく。その日本語を正しく教えるのが、派遣生の役目であった。グループに一人ずつ派遣生が入り、初めは自己紹介を行う。そして質問に答えたり、時には意見を求められたりした。形容詞と形容動詞の違いの難しさを説明することもあった。朝や授業の合間は、和室で過ごすことができたので、日本の雰囲気を感じながら毎日を送れた。日本語教室も様々な日本語に触れられる工夫がされており、ポケモンのポスターが前面にはってあった。日本のアニメは大変人気がある。生徒に日本語について聞いてみると、とても興味を持っていると話してくれた。

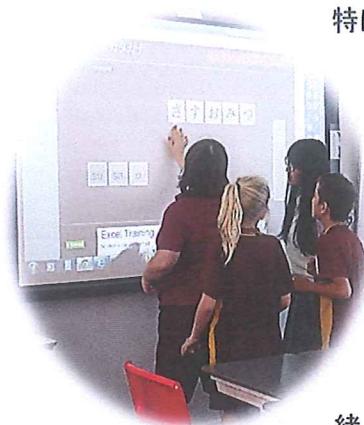
私は、タウンセンド先生とティム先生と連絡を取り合いながら、毎日の日程確認をしたり、先生方の授業のサポートを行ったりしていった。直前になって変更せざるを得ないことも出てきた。モーニングティー やランチタイムは、毎日、スタッフルームで他の先生方と過ごした。また、先生方の計らいで、生徒とは違う授業を参観させてもらった。英語の授業であったが、日本と授業の流れがどのように違うのか、アプローチの仕方はどうか等を学ぶことができた。9年生の授業を参観したが、新聞を自分で作成するための手順を本やビデオ等を通して説明され、重要なポイントは

ノートにとらせる。そして、生徒からのアイディアを出させて話し合いをさせる。いわゆる課題解決型の授業方式であった。生徒が自分の意見を積極的に発言することが多く、分からぬことも挙手をする。教師も丁寧に答えながら、さらに問い合わせる。生徒と教師、生徒同士の学び合いの授業は、これから自身の英語科指導において生かしたいと考えた。

さらに、Humpybong 小と Scarborough 小への訪問で印象深かったことは、ICT 化が進んでおり、児童は電子黒板やタブレットを使い、日本語を学んでいた。

特に Scarborough 小は、校長先生がテクノロジーや専門であり、どの教室も ICT を使えるようになっていると担当の Claire 先生から説明を受けた。生徒たちは教室内の環境に驚き、児童と一緒に夢中になって電子黒板やタブレットを使い触れていた。

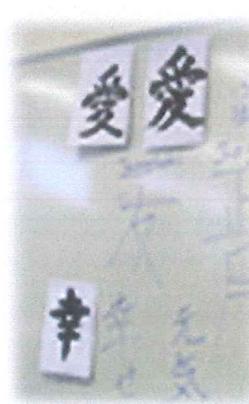
私は、使われている教材の内容に強くひかれた。日本でも外国語活動において、歌やチャンツで表現に慣れ親しませていく。オーストラリアも同様で、授業の始めに、曜日の歌を全員で歌った。(電子黒板に映し出される)英語と日本語が組み合わされた児童に親しみやすい曲であり、大変人気があるとのことであった。私たちもつい口ずさんでしまっていた。小学校もグループ学習となっており、グループごとに学習内容が異なっていた。英語で書かれた文字を積み木を使って日本語で表すグループもあった。これも日本と同じであるが、ひらがな、カタカナのカードが準備されており、カードを使い、文字に慣れさせていくのだと先生から見せていただいた。これは、ハイスクールでもカルタ game で使っていた。ICT 教材は、正しい日本語に並べたり、マッチングさせたりすると、game に表示が変わり児童が楽しみながら日本語を学べるようになっていた。なお、電子黒板は touch パネルである。山陽小野田市でも、このような ICT 教材が使えると、児童の英語に対する興味関心もさらに増すのではないかと考えた。さらに、どちらの小学校でも教室掲示においても、授業すぐに使えるような工夫がされており、大変参考になった。ぜひ、山陽小野田市各小学校での外国語活動に生かしていきたいと思う。Humpybong 小で行った“Do you like neighbor?”は、



すぐに使える game である。児童と共にいつの間にか生徒たちも真剣に game を行っていた。その前に、一人ずつ自己紹介を日本語と英語で行ったが、どの生徒も日頃の英語力を生かして紹介することができた。ただ、その後の日本についての質問に、すぐ答えることができなかつたため、やはり自国のこと、文化をしっかり学んで欲しいと思った。

ICT 化は、ハイスクールでもどんどん活用され、進んでいる。Colleen 先生の授業でも、東京、大阪の映像が映し出され、日本で買い物をする際にオーストラリアドルでいくらいかを、尋ねられ私が答えるとその場で入力しながら授業は進んでいく。日本の生徒にとって、自由な雰囲気の中での授業は、新鮮であり文化の違いを感じ取ることができたに違いない。(ハイスクールは 1 時間が 70 分である。)最後の授業では、お二人の先生の合同授業で、カード game の後、“だんご三兄弟”的歌を使って、いろいろな日本語表現を説明された。生徒たちも幼い頃に聞いた歌に、様々な思い出を寄せていました。

さて、今回の研修の中で私たちは大きな 2 つの session を任された。1 つは Step up session、もう 1 つがさよならパーティーの出し物である。2 時間の session で習字はあらかじめ決まっていたため、全員が手本を書いて見せた。その美しい文字にオーストラリアの児童・生徒は、すばらしいと言って感動していた。一生懸命、手本を見ながら筆をはしらせた。



Step up session は、日本文化を Humpybong 小と Scarborough 小の代表児童・ハイスクールの生徒たちに教えるものであった。現地で私たち教員でまず話し合い、その後生徒たちと内容を決めたため、唯一の空き時間の 2 時間などを使いながら準備を行っていった。一人が 1 つずつ担当を決め、15 分ごとに各グループに教えて行く。内容は、「着物・浴衣の着付け、折り紙、福笑い、漫画、手裏剣を使ったボードゲーム、bingo ゲーム」の 6 つに決めた。いずれも、生徒たちは一生懸命考え、準備を行い丁寧に教えていった。準備は大変であったが、大変好評であった。あつという間の時間の流れに、生徒たちももう少しやりたそうであったが、日本文化を異文化の相手に伝える難しさと大きさをしっかり体感できた充実した 2 時間であったに違

いないと確信している。これを機に、ますます日本についての学びを深めてくれることを期待したい。日本人が自国の文化を伝えるこのプログラムは、大変すばらしいものであると思った。生徒たちにとっても、日本について考えるよい機会となる。新たな試みではあったが今後も続していくと、文化交流がさらに深まることになると考えている。

ハイスクール生活最後のさよならパーティーでは、直前に準備の時間をもらい練習を行った。その中でアレンジを加えダンスをする方が参加者も楽しめるのではないかと提案。生徒も積極的に準備を行い、いよいよ本番をむかえた。6人の息の揃ったダンスを披露することができた。大きな拍手の中で、バディたちも誘い、一緒に「にんじやりばんばん」を踊った。全



員満面の笑顔であり、大成功であった。ホストファミリー手作りの差し入れやタウンセンド先生が準備してくださいました食べ物と一緒に食べながら、和やかな歓談の時間を過ごした。最後に、バディから一言ずつ生徒たちへの英語のメッセージが送られた。各家庭でバディやファミリーと有意義に過ごせたことが、その言葉から伝わってきた。今回のさよならパーティーは、日本語授業のクラスで行われた。4年前にはホールがあったが、現在、建てかえられ以前のホールはないということであった。しかし、ハイスクールの生徒たちがこのパーティーのために事前に飾り付けをしてくれた思い出のクラスで、手作りの温かいパーティーが行われたことは、忘れることがない。大変、和気藹々とした雰囲気の中で最後のスクールライフを終えることができた。バディと帰って行く生徒たちの顔は、満足な微笑みに溢れていた。

引率者として、出発から一番心がけていたことは、生徒たちの安全と健康管理である。毎朝と帰宅する際には健康状態をチェックし、日々の生徒たちの話にしっかり耳を傾け、必要なことは相談に乗り、できる限りの支援を行った。環境の変化から不安なことも

あると思われるため常に気遣いをしてきた。授業や小学校訪問の際に、自ら英語で話しかける様子は、生徒の成長を感じることができた。日々の成長にたくましさも加わり、嬉しく思った。今回から厚狭駅から福岡空港までの往復の仕方も変わり、新幹線を利用し、地下鉄とバスを乗り継ぎ移動するため、安全に考慮していった。13日は帰省ラッシュと重なり、バスを何便も待つ形となった。また24日の帰国では、奇跡的に翌日は台風の直撃で、チャンギでフライトができなかったそうである。一日違いの無事な帰国に、改めてほっとしている。自分自身を含めて、今回、私たちを心から歓迎してくださったホストファミリーに対して、記念撮影後に、引率者として感謝の言葉を述べ、バスでブリスベン空港に向かった。帰国後、Tim先生から挨拶のお礼が送られてきた。本当に家族の一員として受け入れてもらった生徒たちは、貴重な体験をすることができた。

最後に、私がお世話になったホストファミリーとの思い出を綴っておきたい。4年前はブリスベンのフリスピーキー先生宅にホームステイしていたため、レッドクリフでの生活は初めてであった。お二人との最後の一日、私は Sunshine Coast のビーチに行った。朝は、ストロベリーピックで、苺狩をし、マーケットを回った。

雨上がり
の冬の海
であった
が、空に
は美しい
虹の橋が
かかり、夕
日が沈む
瞬間の言
葉にはで



きない真っ赤なあかね色の景色は忘れられない。自然を愛するお二人は、滞在中に私の心に美しいオーストラリアの自然を数多く残してくれた。最初の土日は、Grass Houseまで出かけ、想像以上の険しい坂道を登り、頂上で Mom の 21回目(本人曰く)の Birthday Party を息子家族と共に祝った。このときのケーキは朝、Momと一緒に作ったものである。前回もそうであったが、朝の目覚めは、鳥の声で目覚める。オーストラリアには美しい鳴き声、にぎやかな鳴き声をする有名な鳥たちが多い。Holohan 家にも毎朝決まってやって来る。日本での慌ただしい日常生活とはかけ離れた日々。ゆったりとした時間の流れを感じながら、Mom の止まらないおしゃべりに気がつ

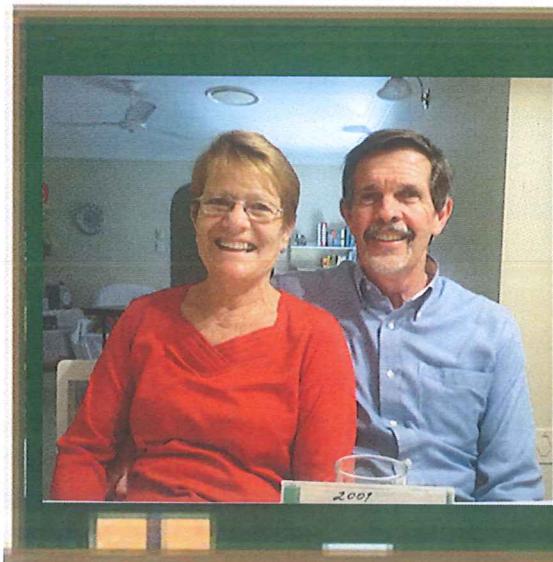
けば、毎日夜中になっていた。おかげで English シャワーをしっかりと浴び、リスニング力につくこともできた。Dad とは、夕食の買い物に二人で何度も行った際に、こっそりと Mom は Talking Specialist だと話していた。いつも広い心で穏やかでゆっくりと話を聞き見守ってくれる Dad。行動力のある Mom。健康には人一倍気遣いをされ、日々、Cooking の手ほどきを受けた。ケーキも 2 度作り、夕食の準備も持つていったエプロンを着て一緒に作った。ある日、私が疲れていることが分かった Mom は、“あなたのベットタイムね。人は睡眠をとることで翌日、元気になる！”さあ、go to bed!”と身体を気にかけてくれた。健康、料理、子育ての話をいろいろ話した。聞くことの方が多かつたが。Mom の趣味は、ウエディングケーキ作りとモザイク製作。この話題になるともう話は止まらない。現在、モザイクで時計を製作中である。Dad は、毎週水曜日に、スカッシュの練習に出かける。お二人に共通していたことは、人との繋がりを何よりも大切にされているということである。私たちが大いに見習うべきことである。

別れの朝、Mom は 3 つのプレゼントを用意してくれていた。1 つは、私を庭に連れて行き、パイナップルの植え付けをさせてくれた。このパイナップルが実るときまた、ここに来るはずだと言って。2 つめは、日々、Cooking で使っていた調理器具を私がとても気に入って使っていたので、同じものをプレゼントされた。日本では見たことのないものだけに、お二人のこのサプライズに驚いた。3 つめは、パセリの種である。日本と味も食感も違うことをよく話していたので、わざわざ朝、店で購入してくれたのだ。思いもかけないことに、どう感謝の気持ちを伝えたらよいのか言葉が

見つからなかった。その前夜、私はお二人に感謝の言葉を色紙に書いて千羽鶴と共に手渡した。涙が止まらなかった。Dad も Mom も本当の娘のように抱きしめてくれた。“あなたは必ずここに帰って来る。約束だよ。”そこに別れの言葉はなかった。再会を約束してベッドで最後の眠りについたのだ。

来年の 8 月 15 日、Mom の 21 回目の Birthday がやってくる。私は、また、この滞在の日々を思い出しながら Birthday Card を書くだろう。私の名付けた“21 forever”という日を。

本事業に携わっておられる多くの方々に、心からの感謝の気持ちを伝えたいと思う。



ホストファミリーの紹介

Holohan 家

夫 Patrick
妻 Merrilynne

山陽小野田市市民生活部協働推進課

〒756-8601

山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134

FAX 0836-83-2604